



# 学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和4年9月1日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



## 9月 学年園の植物たち

校長 渡邊 圭三

42日間の長い夏休みを終えて、今日、子供たちが登校してきました。校舎に響く元気な声を耳にすると、当たり前のことながら「学校は子供たちが主役」ということを実感します。さて、理科や生活科で活用している学年園に目をやると、栽培された植物がたくましく成長しています。中には実を付けているものもあり、子供たちの登校を待ち望んでいたかのようにアピールしています。学期中は各学年や委員会の子が水まきをしていましたが、休み中は日直の教員や日頃から気にかけてくれている学校管理員のおかげで、猛暑日記録更新も何のその、植物たちは立派に育ってきたのです。

学年園で栽培されている植物。3年のヒマワリ、6年のジャガイモ…。各学年の対象となる植物を特定する何か原則のようなものはあるのかと、調べてみました。現行の学習指導要領には右のように解説され、1. 2年の生活科でも「栽培が容易、植物の成長や特徴が捉えやすい、確かな実りを実感でき満足感が得られる」といったものが示されていました。年間指導計画を踏まえ、春蒔きで、病虫害や暑さに強く栽培しやすい、成長が実感できるということが、共通しています。

**3年**…栽培が簡単で、身近に見られるもので、夏生(かせい)一年生の双子葉植物

**4年**…身近で、季節による成長の変化が明確な植物

**5年**…種子が大きく観察しやすいもの。花のつくりについては、おしべ、めしべ、がく及び花びらの存在を確かめられるもの。受粉と結実との関係を調べるため、お(雄)花、め(雌)花のある植物を扱う。

**6年**…葉ででんぷんがつくられる植物

「小学校学習指導要領解説 理科編」より

その昔、私が教職に就いて間もない頃、9月の朝は「ヘチマの花」の観察から始まりました。学年園に花はいくつも咲いていて実もいくつか出来ていたのですが、花はすべて「お(雄)花」でした。しかし、何日か続いた朝、男の子が「今まで見たのと違う花が咲いている」と破顔一笑の表情で教えてくれました。その花こそが、「今日は見つけられるかな」と毎朝子供たちと探し求めていた「め(雌)花」です。待ち望んでいた花を「どこが違うの?」と、大勢の子供たちとワイワイ言いながら、代わる代わるその場で観察したのは懐かしい思い出です。

栽培活動を通して、子供たちは植物に愛情をかけて育て、その成長を喜び、不思議さを感じとっていきます。時には大切に育てても、花が咲かなかったり枯れてしまったりするような残念な体験もするでしょう。そこから、自然に親しみ、生物を愛護しようとする態度や生命尊重の精神が育まれていきます。と同時に、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、理科の見方・考え方を養わせていくのです。

今日から9月。休み明けの朝、早速学年園に行った子供たちがいました。どんな変化に気付いたのでしょうか、気になります。各学年からの報告を楽しみに待ちたいと思います。